

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4098400023		
法人名	株式会社ウエスト		
事業所名	グループホームかすりの里	長寿の棟	
所在地	福岡県八女郡広川町広川1263番3		
自己評価作成日	平成29年2月28日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成29年3月17日	評価結果確定日	平成29年4月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気の中、明るく、楽しく、自分らしく暮らしていけるお手伝いをしています。 地域の祭りや小学校の運動会見学等を行い、入所者様と地域の方々との触れ合いを大切にしています。又、運営推進会議を通して地域の方々との信頼関係構築に力を注いでおり、行事等にも積極的に参加して頂いたり、お手伝いして頂くなど協力を得ています。 これからも、地域との結びつきを大切に、信頼されるグループホームを目指していきます。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>周囲には田園風景が広がり、近隣の小学校や保育園との交流機会やボランティアの来訪も増えており、「かすりの里」は開設して4年目を迎えている。2ヶ月に1回定期開催される運営推進会議や、敬老会後に開催される家族懇談会等を通じて、地域や行政、家族との関係づくりに努め、事業所の実状を理解してもらいながら、信頼関係の構築や開かれた事業運営に努めている。日々の個人記録には、言葉や心情の変化等が丁寧に残され、日々の暮らしが共有しやすい。また、個別の生活歴に応じた役割づくり等、家族との連携も活かしながら、日々の暮らしの中で認知症ケアへのアプローチを重ねている。外部講師による講義も含め、計画的に研修を実施し、サービスの質の確保に熱心に取り組んでおり、地域拠点として存在の高まりが大いに期待される。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念唱和を行っている。 職場内研修を毎月実施し、共有に理解を深めている。	理念は目に付きやすい場所に掲示され、全体会議の中での唱和や名札の裏に携行し、日々の関わりの中で意識出来るよう取り組んでいる。また、理念に基づき職員間で検討した年度目標を設定し、個人目標とあわせて年度末に達成状況を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアグループや保育園児を施設へ招き、利用者との交流を行っている。 又、地域行事への参加を積極的に行っている。	日常の中で地域のスーパーを利用し、ボランティアの方々(ひよっとこ踊り・手品等)や近隣保育園児との交流機会がある。法人としての秋まつり(銀杏まつり)は、地域のボランティアの方々の協力も得ながら盛況に開催されている。平成29年度より隣組に加入する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解や介護についての相談等、地域の方が気軽に立ち寄れるような施設として継続的なアピールを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて状況報告を行っており、意見やアドバイスをいただいている。 取り込めるものは、サービスの向上に活かす様になっている。	運営推進会議は、利用者、家族代表、区長、民生委員、広川町役場担当者の出席を得て、2ヶ月に1回開催されている。議事録から、近隣に居住されていた利用者と委員との馴染みの関係性や、家族同士の意見交換の場として活用されていることがうかがえる。平成29年4月より隣組に加入することが会議の中で承認されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場の担当者が運営推進会議の委員でもあり、協力関係を築くよう努力している。	運営推進会議には、広川町役場担当者の出席を得ており、事業所の実状を理解してもらい、ボランティアに関する情報提供を受け運営に反映させている。 ケースワーカーの方との情報共有も図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、全職員が理解・認識できケアに取り組んでいる。	年間研修計画の中に計画的に組み入れ、継続して職員の意識や理解を高める取り組みがある。日中、玄関の施錠は行っていない。日々の関わりの中での言葉や対応、夜間は無理に睡眠を誘導せず温かい飲み物を提供する等、スピーチロックやドラックロックにも意識を持ち支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修を行うなどして、全職員が理解を深め虐待防止に努めている。		

福岡県 グループホーム かすりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講師を招き、職員会議において講義してもらい、制度について学ぶ機会を設けている。 また、外部研修等には積極的に参加するよう施設としても取り組んでいる。	成年後見制度や日常生活自立支援事業について、外部講師を招き、継続して学ぶ機会を確保している。 資料を用意し、必要時には活用に向けた情報提供が行える体制である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解納得をしていただけるよう十分に説明を行い、不明なところがあれば、その都度詳しく説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、要望については会議でスタッフ全員へ周知している。 運営推進会議でも報告し、意見によっては運営に反映させている。	家族の来訪する機会が多く、直接意見を表出できる関係づくりに努めている。また、敬老会行事の後に家族会を開催し食事を共にする等、参加率を高める工夫も行われている。出された意見や要望は、運営推進会議や全体会議にて共有し、運営への反映に努めている。毎月「暮らしの様子」と題し、家族へ日々の暮らしぶりを報告している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議にて意見交換や運営会議で提案の場を設けている。 又、個人面接も行い意見を聞いている。	月に1回、職員全員参加を基本とする職員会議を開催し、意見の出しやすい雰囲気づくりに努めている。 また、年に1回、個人面接も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回、自己評価を行ってもらっている。目標や成果等を書いてもらい、職場環境の整備に取り組んでいる。 又、全職員の面接を実施している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用に関しては、性別、年齢、経験等関係なくやる気を重視している。 又、事業所で働く職員についても自由に自己実現が出来る様にしている。	職員の採用時には管理者も面接に立ち会い、人柄を重視し、年齢や性別等を理由とする排除は行わないようにしている。外部研修参加に向けた勤務調整や費用面でのサポート体制があり、個別のスキルアップを支援している。職員が子供と共に「よさこい」を披露する場面もあり、風通しの良さがうかがえる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職場内研修を行い、ケアに浸透していく様に取り組んでいる。	外部講師を招いて実施される「尊厳」や「プライバシー確保」「倫理・法令遵守」「権利擁護制度」に関する研修や、「認知症ケア」「高齢者虐待防止」等の内部研修実施を通じて、職員への人権教育、啓発に努めている。	

福岡県 グループホーム かすりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修については、積極的に参加するようにしている。 研修終了後にレポートの提出及び職員会議において発表してもらっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で開催される勉強会に参加して交流の機会を増やし、情報交換等でサービスの向上が図れる様取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や面談にて、利用者様とご家族様の不安や要望等を伺うと共に、不安軽減に向けて明るく安心して入所していただける様関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安、要望等を傾聴すると共に、サービスの内容等について十分に説明を行い、信頼していただける様に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様にとって適切と思われるサービスに関しての情報提供を行い、利用者様とご家族様が必要とするサービスの選択が出来る様支援を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の状態に応じて、役割を持っていただくことで、一人ひとりの力を活かせる様支援している。入所者様同士入所者様と職員間で支え合いながら、暮らしを共にする関係づくりに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の要望や思いを受容し、利用者様の状態の変化等情報を共有し、一緒に行事等に参加していただくなど共に利用者様を支援していく関係を築いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への一時帰省やご家族様と外出、又面会などゆっくり過ごせる様な空間づくりに努め、大切な関係を継続出来る様支援している。	出身が同じ職員がその地域の方言を用いコミュニケーションを深めたり、家族との連携も図りながら自宅や畑の様子を見に出かけている。職歴に応じて、調理の仕方を教えてもらったり、中庭で地域の名産品である苺の栽培方法を教えてもらう等、個別のこれまでの暮らしを反映しながら、日々の関わりの中に活かしている。	

福岡県 グループホーム かすりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が良い関係が保たれる様テーブルの席を配置したり、トラブルを防げる様配慮し、穏やかに関わり合いが出来る様、支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、利用者様やご家族様からの相談を受け支援に努めている。 又、サービス等に関する情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様やご家族様より、希望や意向を伺い、可能な限り尊重するよう努めている。 確認が困難な場合は表情等で把握できるよう努めている。	日々の個人記録には、言葉や心情の変化等が丁寧に残され、日々の暮らしが共有しやすい。また「暮らしの様子」として、毎月家族へ暮らしが報告している。実践への反映にも取り組んでおり、今後は職員個々が持つ情報を集約し、アセスメントの充実にも期待したい。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族様に伺うと共に、担当介護支援専門員からの情報提供により、生活歴や生活環境等の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタル測定や表情、活気の有無、食事摂取状況等の中で、変化の把握に努めている。又、朝夕の申送りや記録等で情報共有を図っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族様の要望を伺い、モニタリングやカンファレンスを行い、それぞれの意見が反映できる様介護計画を作成している。	本人、家族の意向を踏まえ、医師や看護師、職員の意見をもとにカンファレンスを実施し、介護計画を作成している。実践状況及び達成状況を確認しながら、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアに関して記録を行い、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		

福岡県 グループホーム かすりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望されるサービスを受けられる様に対応している。 又、訪問診療を受けれるようにしたり、福祉用具も直に対応できるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的にボランティアの方々と地域交流を行ったり、運営推進委員と情報交換を行い、地域行事の参加等、温かい支援を頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医を確認している。 又、協力医にも2週間毎の往診や24時間対応できる体制を整えており、状況に応じて受診の対応も行っている。	入居契約時に、かかりつけ医に関する意向を確認している。複数の協力医療機関との連携による訪問診療や看護師の配置により、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に利用者様の状態の伝達を行ったり、不在時は、協力医へ連絡を行うなど適切な連携、協働が図れるように努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病棟看護師へ送りを行ったり、早期退院出来る様に担当のソーシャルワーカーとの情報交換を行ったりしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応、終末期ケア指針について、説明を行い看取り介護についての同意をいただいている。利用者様の状態に応じ意思の確認を行い、主治医と連携を図りながら対応を行っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時より事業所としての方針を指針をもとに説明し、同意を得ている。これまでに看取りの実績もあり、家族や医師、職員との話し合いを重ね、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、消防隊員による講習会や職場研修を行い実践力を身につけるように努めている。		

福岡県 グループホーム かすりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力にて、年2回(昼夜間交互)避難訓練を実施している。又、消火訓練や心肺蘇生法の講習を受け、実施訓練を行っている。	年2回、消防署員2名及び消防設備業者の参加を得て、昼夜を想定した避難訓練を実施している。また、心肺蘇生やAEDに関する訓練も実施されている。飲料水や非常食等、1週間の備蓄品を準備している。	火災以外にも、自然災害(地震・風水害)に関する対策について、運営推進会議等を活用しながら、避難方法の検討や地域との協力体制作りに取り組むことが期待されます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳や人格を尊重し、プライバシーの保護にも努めている。 個人情報の保管場所も決め管理を行っている。	外部講師を招き、尊厳やプライバシー保護に関する内部研修を継続して実施されている。気が付いた点はその都度注意しあえる関係づくりに努めている。見守りの距離感も個別に検討し、プライバシーを損ねない対応に留意している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図り、自己決定できるよう支援している。 意志疎通が難しい方でも表情や仕草を見て要望を理解できるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、一人ひとりのペースと時間を尊重し、希望に沿って生活を送って頂いていけるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみや、お洒落が自尊心を傷つけない様支援している。 又、定期的に理美容を利用できるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮剥きやもやしの根切り等の食事準備や後片付けに参加していただき、入所者様と職員と一緒に食事できるよう支援している。 又、ご家族様にも情報収集を行い、嗜好の把握に努めている。	調理担当職員が配置され、嗜好やバランス、季節感等に配慮しながら食事を提供している。小鉢を用い品数も多く、視覚からも食事を楽しめるよう形状等も工夫している。野菜の皮むきや調理方法等、職歴等も反映しながら役割づくりを支援している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて、食事形態の工夫を行ったり、量を検討したりしている。 又、食事量が少ない方に対しては、栄養補助食品の導入を行ったりしている。		

福岡県 グループホーム かすりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施出来ており、ご自身でされる方は磨き残しが無いか確認を行っている。又、必要に応じて歯科往診を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを確認しながら、排泄物品の検討を行っている。 基本的には、日中はトイレで排泄が出来るようにしている。	個別の排泄状況の把握に努め、日中はトイレでの排泄を基本として支援を行っている。排泄パターンや個別のサインの共有及び検討、日々のリハビリ体操の実施等を通じて、小さな成功事例を積み重ね、失禁の減少や排泄の自立に向けた支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な食事や水分を摂取でき、体操等で適度な運動が出来る様支援している。 又、主治医の指示のもと下剤でのコントロールを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の希望や体調・皮膚の状態等に応じ、入浴回数や時間等対応している。 又、拒否される方に対しても声掛けを工夫している。	ある程度の入浴スケジュールは設定しているが、毎日入浴準備を行い、その日の希望や体調、状況に応じた柔軟な対応に努めている。拒否がある場合には、タイミングや日程を変更し、無理強いとならないよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室環境を整え、安心して休んでいただけるように支援している。 又、生活習慣や体調に応じて日中も休息出来る様支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎に薬情をファイルし、又、お薬手帳の確認もできるようにしているため、目的や副作用等が理解できるようにしている。 変更があった時は、情報共有できるよう努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴やADL状況に応じ、洗濯たたみやレクリエーションの進行などの役割を持っていただいている。 又、行事ではご家族様と共に楽しんで頂けるよう支援している。		

福岡県 グループホーム かすりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事への参加や、天候の良い日は外気浴、散歩等を実施している。 ご利用者様、ご家族様の要望にて、買い物と一緒に楽しめるよう支援している。	中庭にプランターを配置し、地域の名産である苺や野菜を栽培したり、洗濯物干しやベンチでの日光浴を行っている。介護計画の中に「散歩」を位置付けている方もおり、家族との連携による外出の機会もある。個別の希望や目的に応じた外出の機会の拡大を課題として検討しているところである。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理や買い物は、基本的にはご家族様、職員にて行っているが、利用者様の要望や習慣に応じて少額の現金を所持出来る様支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様やご家族様の要望により、電話を掛けたり郵便物の受け取りを行い、ご家族様や親しい方々との繋がりを大切に出来る様支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下から中庭の木々を眺められ、季節感や開放感を感じられるようになっている。 特に、長時間過ごされるリビングやトイレは温度、湿度、音、照明、臭いに注意を払い、快適な空間づくりに努めている。	中庭を中心として回廊式となっている開放的な共用空間は、整理整頓が行き届き、清潔感がある。中庭のプランターでは季節に応じた野菜が育てられ、訪問当日は家族より提供された「さげもん」が飾られていた。テーブルやソファの配置が工夫され、その時々に応じた居場所が確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士、会話を楽めるような席の配置にし、ゆっくり寛げるようソファ等の配置にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様やご家族様と相談しながら、好みの物や家具に囲まれた居心地の良い空間になるよう工夫している。	筆筒やクローゼットは備え付けとなっており、家族の写真等を飾り、関係性の継続や安心して過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで手摺りを設置している。トイレやリビング等は、文字と絵を表示して安心安全に自立した生活が送れるよう支援している。		